

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩心 会 発行

8年10月現在 逗葉大(合) 子山地地区計 山地区計 船地区計	会員数 152名 213名 40名 405名	8年10月(291号) 発行 加藤 藤 岳 相 中編 集 岳 者 村 岳 愛
---	------------------------------------	--

行事予定

- 碩心会60周年準備委員会
 日時・10月23日(水)午後6時30分より
 会場・逗子銀座会(郵便局前自伝車店裏)
 参加・常任理事、参事(欠席の方は連絡)
- 逗子文化祭・詩吟詩舞発表会
 日時・11月3日(祭)9時30分より
 会場・逗子市立図書館ホール
- 葉山町文化祭・詩吟詩舞の会
 日時・11月17日(日)10時より
 会場・葉山文化会館大ホール
 (今年は葉山マジシャンズ倶楽部が共催します。)
- 県本部高段者吟法講座
 日時・11月17日(日)9時受付、9時半開始
 会場・平塚農業会館
 講習料・前納・詳細は該当者に連絡
 吟道手帳、審査課題テキスト持参
 弁当は自前
- 県本部納会
 日時・11月30日(土)
 会場・平塚農業会館
 (日時11月23日が11月30日に変更)

碩心会 一色支部30周年大会

- 日時・12月1日(日)10時より
 会場・一色会館
- 碩心会 大船地区温習会
 日時・12月21日(土)
 会場・逗子市立図書館ホール
- 碩心会 指導者講習会納会
 日時・12月24日(火)午後6時〜8時
 会場・神奈川県警察職員
 海浜保養所葉山荘
 (海岸廻り葉山行バス真名瀬下車)
 会費・不要
 申込・11月26日(指導者講習会の日迄)
 教務部 杉山
- 三井岳隴先生が左記に転居されました。
 記
 〒238-003 横須賀市武三三三八二四
 ケアハウス「あつとホーム」101号
 ☎〇四六八―五六―六四六八
 御健康を心から祈ります。

◎「南宗の遺民・真山民の詩集」

藤森岳宇先生著の右詩集が、左記の通り発行されることになり、多くの方々に、真山民の姿を知っていただきたいとのことです。

記

- 一、書名・「真山民全集」(仮称)
 - 一、予定定価・三六〇〇円(税込み)
 - 一、予約頒価・二八〇〇円(税込み)
- (一括10冊以上は一割引)

- 一、発行日・平成九年一月下旬
- 一、申し込み・なるべく早く総務部・松井正岳方へ(☎5619232)

◎NHK 漢詩紀行(全19巻)

- 一、価 格・六六、五〇〇円(分割可能)
- 一、申し込み・松井正岳方(詳細上記方へ)

入会の動機

逗子A 松尾 顕 泉

二年ほど前の春まだ浅き日、私は始めて秋谷の立石にある老人保養センターに行きました。二階の大広間では三十人ほどの人が、お

茶を呑みながら、舞台のカラオケに聞き入っていられました。私も入浴をすませ、隣にいた方と話をしているうちに、その方が剣詩舞の先生であることがわかりました。そして明日もここでお稽古があるので見にこないかとお誘いの言葉をうけました。

私は前々から、男らしい習いごとをして自分を変えたい：と思っていたので、翌日早速剣舞を見学にゆきました。皆さんが楽しそうに稽古に励む雰囲気は、とてもすばらしいと思えました。眼下には立派な枝ぶりの松林、晴れた日には富士山がその偉容を現わす、このような風光明媚な場所は数少なく、自然と稽古に熱が入るのも成程と思ひ、私も皆さんの仲間に入れていただくことにしました。

その後しばらくたった或る日先生が、「剣舞をやるには詩吟を習う必要がある」と言われ、先生の指示で川瀬教場へ伺いました。私には、詩吟の先生はなんとなくお固くて、近寄り難いとの思いがして、高まる胸を押さえながらついてゆきました。ところが到着早々、「どうぞ、どうぞ中へ」と、久しぶりに合う友人のような大きな声ですすめられ、好感のもてる一声で先ずは安心。穏やかな風貌と笑

顔で迎えられ、案ずるよりは：の言葉通り。この時から、よし、やってみようと決心、これから末長く続くであろう吟道への第一歩を踏み出したのです。

還暦半ばを既に過ぎた私は、一人で声を張りあげたことは全くなく、半世紀も前、海軍の予科練に入った約二年間、号令演習と軍歌を歌った時ぐらいで、まして自己主張のなかった私は仲々声が出ませんでした。碩心会の始めての温習会で、数ある漢詩の中より、先生が私に「偶成」を選ばれたのは、私の心の中を読まれたからでしょうか。「豪気堂々大空に横たわる：」まさに日本男子本懐の詩と思います。私なりに宇宙の物すべて温かく包みこんで、共に楽しく生きてゆこうではないか。大いに胸を張り、おおらかに、高らかに、吟道精神の一節「一吟天地の心」で蛮声を張りあげております。

家族の者から「おじいちゃん、最近変わったね」とよく言われます。詩吟によって充実した毎日を過ごす：これが私の生き甲斐で、又大満足です。これからは先生を始め、諸先輩の方々の温かいまなざしをいただき、日々励むつもりです。何卒よろしく願います。

千二百年前より続く

森山神社 三十三年行合祭り

和歌献詠の儀に朗詠

佐久間 爽 岳

平成8年9月12日より五日間、葉山町一色の森山神社三十三年目の大祭が行なわれ、荘厳に、また賑やかで華やいだ数日でした。

お水取りの神事から始まり、福餅、福銭投げ、最大行事の14日は堂々の木遣り36人の声があひびき、心が浮き立つ伝統のお囃子に乗せた山車、八乙女の列。かけ声も勇ましい男神様である小坪の神輿、葉山の女神様森山社の新しい神輿の列は絵巻ものを見るようでした。一色海岸にて厳かに神婚祭が行なわれ多勢の方が集まりました。テレビカメラも入り、祭は町の伝承文化として今回認められました。八乙女は金の冠に菊のかんざし、緋の袴に水干を着て、五色の緒のついた神楽鈴は美しい音色でした。当日は朝からお手伝いをしました。地元から選ばれた八人の乙女は注目の的でした。

東鑑や相模風土記によると、森山社の創建は良辯僧正の草創になり、ご祭神は奇稲田姫

命で、ご神徳は五穀豊穡、縁結び、夫婦和合、その他「世計り神事」が行なわれます。小坪の須賀神社の素盞鳴命とご夫婦であり三十三年目に一回、神婚祭が行なわれ、葉山へお渡りになられるので行合祭りと言われるそうです。そして今回がその四十回を迎える大祭となりました。

昔は小坪から船で神輿の渡御があったり、または陸路を山車を運んで往復したそうです。その頃は七日間ご滞泊のあと、小坪へ神様をお送りしたそうで、この行事は神様の壮大なロマンといえましょう。

ところが葉山の神輿は暴れみこしであるからと、江戸時代に埋めてしまったとのこと。以来お渡りはあっても姫神様の神輿はありませんでした。

そして本年の始め頃、大祭に備えて、神輿を今、作らねばの気運が高まり、浄財を勧請の上にて、日展入選作家の細野三兄弟の力作「葱花輦」が完成しました。姫神様らしい優美さで白木のままというのも神々しいもののでした。

古事記には、八岐の大蛇を退治した素盞鳴命はその時助けた奇稲田姫命と結婚すること

になり出雲の国に宮殿を造り給い

八雲立つ 出雲八重垣 妻陰みに

八重垣つくる その八重垣を（愛吟集）

と詠まれ、この歌はわが国で最初の和歌となつたそうです。そして松江市にある八重垣神社には、奇稲田姫命の次の返歌と併せて祀られているそうです。

日も暮れぬ 媒妹の戸を はや閉じよ

心の闇に われ惑わずな

今回の行合祭りの和歌献詠の儀に、右の歌二首とその他、葉山町短歌の連盟有志により大祭に当り詠まれた歌を十首、岳風流の朗詠にて奉納いたしました。宮司様（葉山の町長守屋大光氏）と八乙女、そして和歌献詠の方、氏子総代が参列されている神殿の中に於て、地元の碩心会会員により厳かに、神様に聞こし召しいただきました。尺八と朗詠の合い間に折々、参詣の人が鳴らす鈴の音が秋の澄んだ大気の中に響いておりました。

9月16日は、お帰りになる神輿を送つて、多勢で小坪を訪れ、碩心会の田中明岳様もいられて、氏子会の方々から心のこもつたおもてなしを頂き、誠にありがとうございました。

いろは吟道語録の中より

「吟友」五月号に、先覚者の吟道語録を、いろは順に集め、吟道研鑽の指針としているという方のいろは吟道語録が掲載されました。紙面の都合で、その中から抜粋してみました。

- い・一篇の詩歌には万感の情がある
- ろ・朗々と吟ずる、それは青春
- は・反省と研究が進歩向上
- に・二句三息は吟の鉄則
- と・共に学ぶの姿勢が大切
- り・立派な吟とは詩中の人となること
- ぬ・ぬすむ息、呼吸のつき方、間合の研究
- よ・余韻のひき方詩境を表わす
- れ・礼と節の大切さ
- そ・素読、音読、その詩を己の心に
- つ・常に反復練習、一詩千吟身につけよ
- の・脳の健康、丹田呼吸
- お・温故知新、人間錬成吟の道
- あ・アクセントは意味を正しく伝える
- ゆ・幽玄の世界に浸る吟の妙
- め・明瞭な発言口を大きく
- ゑ・永遠の命、それは吟道

九月十三夜

林 羅山

ひとり疎簾を捲いて彼の蒼を仰ぐ
月明一夜漸く望に幾し
白沙翠竹籬辺の影
恰も黄花節後の霜に似たり

(語 釈)

彼蒼 Ⅱ空、天、彼の蒼天
望(ぼう) Ⅱ十五夜の月

(訳 詩)

簾(みす) 上げて 天を揚げば
月明ら 望(もち) 近き夜
砂白く 竹は翠(みどり)に
影は濃し 籬(まがき)のしげみ
月光は さも似たり
菊の祭りの 後の白霜

林 羅山(一五八三―一六五七)

江戸初期の儒者。初め仏道を学んだが、儒学によって家康に登用された。家康、秀忠、家光の三代にわたって侍講を勤め、幕府の政治に貢献した。伝えられる詩は五千首に及び、江戸時代きつての詩文家であった。

碩心会秋期審査会

嵐の中御苦労でした

9月22日審査会の日、偶々台風17号が千葉沖通過、雨風共に強く、今までに例のない審査会となりました。それに加えてJRの電車が不通となり、特に大船方面の受審者の方、又、審査に協力していた先生方には、時間的に、又車代の出費などで大変だったと思います。受審の皆さん、又協力の先生、ほんとうに御苦労様でした。

全国吟道大会

盛會裡に終る

9月29日(日)明治神宮會館大ホールにて行なわれ、神奈川地区より左記合吟三題の出吟があり、碩心会メンバーも参加。ぶつつけ本番の大合吟でしたが、音程よく、よく揃い、私なりに三題とも上出来に思えました。

富士山・(95人) 先導：中村岳愛
神州・(116人) 〃：佐藤岳昭
常盤・(89人) 〃：渡辺岳允
抱孤図